団体名 坂月川愛好会

事業名 坂月川上流部の環境保全

No.	評価項目	評価項目の考え方	評価の基準	評価
1	事業の実施状況	実施時期・場所、実施回数、事業規模、費用など、事業が申請時の計画どおりに進められたか。	A: 計画を上回って実施できた B: 計画どおり実施できた C: 計画どおりに実施できなかった	B
2	事業目的の達成度	申請時に掲げた目的が達成されたか。達成に複数年要する目標の場合は、事業の成果が事業目的の達成につながっているか。	A: 達成できた又は達成に十分つながった B: 達成まであと一歩だった 又は達成に多少はつながった C: 達成には不十分だった	A
3	事業成果の有効性	事業の成果は、制度目的である地域課題の解決や地域活性化につながったか。	A: 制度の目的に十分に寄与するものだった B: 制度の目的に多少は寄与するものだった C: 制度の目的に寄与しなかった	A
4	PR活動の積極性	事業への参加者・協力者を増やすとともに、自団体の活動をPRするために積極的な周知が行われたか。	A: 様々な媒体を活用し積極的なPRが行われた B: 小規模ではあるが一定のPRが行われた C: PRはあまり行われなかった	A
5	外部団体との交流	事業の実施をきっかけとして、外部（他団体、地域住民など）との交流が行われ、団体構成員の増加や新たな事業計画の検討など団体の活性化が図られたか。	A: 外部との交流が行われ、団体の活性化につながる具体的な成果があった B: 外部との交流が行われたが、団体の活性化につながる具体的な成果はなかった C: 外部との交流には消極的で、団体活性化のための具体的な成果もなかった	A
6	活動の継続性	事業もしくは団体としての活動の継続・発展に向けた実施団体の動きがあるか。	A: 団体として具体的な計画を立てている B: 団体としての動きが多少ある C: 継続・発展に向けた動きはない	A

特記事項

団体名 NPO法人すくえ・あ

事業名 親子の感情と社会性を育み自立を目指す親子さあくる もこぴっと

No.	評価項目	評価項目の考え方	評価の基準	評価
1	事業の実施状況	実施時期・場所、実施回数、事業規模、費用など、事業が申請時の計画どおりに進められたか。	A: 計画を上回って実施できた B: 計画どおり実施できた C: 計画どおりに実施できなかった	B
2	事業目的の達成度	申請時に掲げた目的が達成されたか。達成に複数年要する目標の場合は、事業の成果が事業目的の達成につながっているか。	A: 達成できた又は達成に十分つながった B: 達成まであと一歩だった 又は達成に多少はつながった C: 達成には不十分だった	B
3	事業成果の有効性	事業の成果は、制度目的である地域課題の解決や地域活性化につながったか。	A: 制度の目的に十分に寄与するものだった B: 制度の目的に多少は寄与するものだった C: 制度の目的に寄与しなかった	B
4	PR活動の積極性	事業への参加者・協力者を増やすとともに、自団体の活動をPRするために積極的な周知が行われたか。	A: 様々な媒体を活用し積極的なPRが行われた B: 小規模ではあるが一定のPRが行われた C: PRはあまり行われなかった	B
5	外部団体との交流	事業の実施をきっかけとして、外部（他団体、地域住民など）との交流が行われ、団体構成員の増加や新たな事業計画の検討など団体の活性化が図られたか。	A: 外部との交流が行われ、団体の活性化につながる具体的な成果があった B: 外部との交流が行われたが、団体の活性化につながる具体的な成果はなかった C: 外部との交流には消極的で、団体活性化のための具体的な成果もなかった	B
6	活動の継続性	事業もしくは団体としての活動の継続・発展に向けた実施団体の動きがあるか。	A: 団体として具体的な計画を立てている B: 団体としての動きが多少ある C: 継続・発展に向けた動きはない	B

特記事項

団体名 フリースペース いちごくらぶ

事業名 フリースペース いちごくらぶ

No.	評価項目	評価項目の考え方	評価の基準	評価
1	事業の実施状況	実施時期・場所、実施回数、事業規模、費用など、事業が申請時の計画どおりに進められたか。	A: 計画を上回って実施できた B: 計画どおり実施できた C: 計画どおりに実施できなかった	B
2	事業目的の達成度	申請時に掲げた目的が達成されたか。達成に複数年要する目標の場合は、事業の成果が事業目的の達成につながっているか。	A: 達成できた又は達成に十分つながった B: 達成まであと一歩だった 又は達成に多少はつながった C: 達成には不十分だった	A
3	事業成果の有効性	事業の成果は、制度目的である地域課題の解決や地域活性化につながったか。	A: 制度の目的に十分に寄与するものだった B: 制度の目的に多少は寄与するものだった C: 制度の目的に寄与しなかった	B
4	PR活動の積極性	事業への参加者・協力者を増やすとともに、自団体の活動をPRするために積極的な周知が行われたか。	A: 様々な媒体を活用し積極的なPRが行われた B: 小規模ではあるが一定のPRが行われた C: PRはあまり行われなかった	B
5	外部団体との交流	事業の実施をきっかけとして、外部（他団体、地域住民など）との交流が行われ、団体構成員の増加や新たな事業計画の検討など団体の活性化が図られたか。	A: 外部との交流が行われ、団体の活性化につながる具体的な成果があった B: 外部との交流が行われたが、団体の活性化につながる具体的な成果はなかった C: 外部との交流には消極的で、団体活性化のための具体的な成果もなかった	A
6	活動の継続性	事業もしくは団体としての活動の継続・発展に向けた実施団体の動きがあるか。	A: 団体として具体的な計画を立てている B: 団体としての動きが多少ある C: 継続・発展に向けた動きはない	B

特記事項

団体名 夏休みまいにち居場所大作戦実行委員会

事業名 ほぼ毎月駄菓子屋(いばしょ)夏休みほぼまいにち駄菓子屋(いばしょ)

No.	評価項目	評価項目の考え方	評価の基準	評価
1	事業の実施状況	実施時期・場所、実施回数、事業規模、費用など、事業が申請時の計画どおりに進められたか。	A: 計画を上回って実施できた B: 計画どおり実施できた C: 計画どおりに実施できなかった	B
2	事業目的の達成度	申請時に掲げた目的が達成されたか。達成に複数年要する目標の場合は、事業の成果が事業目的の達成につながっているか。	A: 達成できた又は達成に十分つながった B: 達成まであと一歩だった 又は達成に多少はつながった C: 達成には不十分だった	A
3	事業成果の有効性	事業の成果は、制度目的である地域課題の解決や地域活性化につながったか。	A: 制度の目的に十分に寄与するものだった B: 制度の目的に多少は寄与するものだった C: 制度の目的に寄与しなかった	A
4	PR活動の積極性	事業への参加者・協力者を増やすとともに、自団体の活動をPRするために積極的な周知が行われたか。	A: 様々な媒体を活用し積極的なPRが行われた B: 小規模ではあるが一定のPRが行われた C: PRはあまり行われなかった	A
5	外部団体との交流	事業の実施をきっかけとして、外部(他団体、地域住民など)との交流が行われ、団体構成員の増加や新たな事業計画の検討など団体の活性化が図られたか。	A: 外部との交流が行われ、団体の活性化につながる具体的な成果があった B: 外部との交流が行われたが、団体の活性化につながる具体的な成果はなかった C: 外部との交流には消極的で、団体活性化のための具体的な成果もなかった	A
6	活動の継続性	事業もしくは団体としての活動の継続・発展に向けた実施団体の動きがあるか。	A: 団体として具体的な計画を立てている B: 団体としての動きが多少ある C: 継続・発展に向けた動きはない	A

特記事項

団体名 まるまるキッチン

事業名 キッチンカーによる地域交流・多世代交流事業

No.	評価項目	評価項目の考え方	評価の基準	評価
1	事業の実施状況	実施時期・場所、実施回数、事業規模、費用など、事業が申請時の計画どおりに進められたか。	A: 計画を上回って実施できた B: 計画どおり実施できた C: 計画どおりに実施できなかった	B
2	事業目的の達成度	申請時に掲げた目的が達成されたか。達成に複数年要する目標の場合は、事業の成果が事業目的の達成につながっているか。	A: 達成できた又は達成に十分つながった B: 達成まであと一歩だった 又は達成に多少はつながった C: 達成には不十分だった	B
3	事業成果の有効性	事業の成果は、制度目的である地域課題の解決や地域活性化につながったか。	A: 制度の目的に十分に寄与するものだった B: 制度の目的に多少は寄与するものだった C: 制度の目的に寄与しなかった	A
4	PR活動の積極性	事業への参加者・協力者を増やすとともに、自団体の活動をPRするために積極的な周知が行われたか。	A: 様々な媒体を活用し積極的なPRが行われた B: 小規模ではあるが一定のPRが行われた C: PRはあまり行われなかった	B
5	外部団体との交流	事業の実施をきっかけとして、外部（他団体、地域住民など）との交流が行われ、団体構成員の増加や新たな事業計画の検討など団体の活性化が図られたか。	A: 外部との交流が行われ、団体の活性化につながる具体的な成果があった B: 外部との交流が行われたが、団体の活性化につながる具体的な成果はなかった C: 外部との交流には消極的で、団体活性化のための具体的な成果もなかった	B
6	活動の継続性	事業もしくは団体としての活動の継続・発展に向けた実施団体の動きがあるか。	A: 団体として具体的な計画を立てている B: 団体としての動きが多少ある C: 継続・発展に向けた動きはない	B

特記事項

団体名 工房 小倉ファーム

事業名 土から育てる衣服作り(紡ぐ・染める・織る)を通して、縄文時代の知恵と魅力を体験しよう！

No.	評価項目	評価項目の考え方	評価の基準	評価
1	事業の実施状況	実施時期・場所、実施回数、事業規模、費用など、事業が申請時の計画どおりに進められたか。	A: 計画を上回って実施できた B: 計画どおり実施できた C: 計画どおりに実施できなかった	B
2	事業目的の達成度	申請時に掲げた目的が達成されたか。達成に複数年要する目標の場合は、事業の成果が事業目的の達成につながっているか。	A: 達成できた又は達成に十分つながった B: 達成まであと一歩だった 又は達成に多少はつながった C: 達成には不十分だった	B
3	事業成果の有効性	事業の成果は、制度目的である地域課題の解決や地域活性化につながったか。	A: 制度の目的に十分に寄与するものだった B: 制度の目的に多少は寄与するものだった C: 制度の目的に寄与しなかった	B
4	PR活動の積極性	事業への参加者・協力者を増やすとともに、自団体の活動をPRするために積極的な周知が行われたか。	A: 様々な媒体を活用し積極的なPRが行われた B: 小規模ではあるが一定のPRが行われた C: PRはあまり行われなかった	B
5	外部団体との交流	事業の実施をきっかけとして、外部(他団体、地域住民など)との交流が行われ、団体構成員の増加や新たな事業計画の検討など団体の活性化が図られたか。	A: 外部との交流が行われ、団体の活性化につながる具体的な成果があった B: 外部との交流が行われたが、団体の活性化につながる具体的な成果はなかった C: 外部との交流には消極的で、団体活性化のための具体的な成果もなかった	A
6	活動の継続性	事業もしくは団体としての活動の継続・発展に向けた実施団体の動きがあるか。	A: 団体として具体的な計画を立てている B: 団体としての動きが多少ある C: 継続・発展に向けた動きはない	B

特記事項

審査員より「事業の主旨である「衣服づくり」について、子ども服などのサイズでも良かったため、ぜひ実現させてほしい」旨のコメントあり。

団体名 およこふれいす ちるる

事業名 子育て世代と高齢者の触れ合い交流事業

No.	評価項目	評価項目の考え方	評価の基準	評価
1	事業の実施状況	実施時期・場所、実施回数、事業規模、費用など、事業が申請時の計画どおりに進められたか。	A: 計画を上回って実施できた B: 計画どおり実施できた C: 計画どおりに実施できなかった	B
2	事業目的の達成度	申請時に掲げた目的が達成されたか。達成に複数年要する目標の場合は、事業の成果が事業目的の達成につながっているか。	A: 達成できた又は達成に十分つながった B: 達成まであと一歩だった 又は達成に多少はつながった C: 達成には不十分だった	A
3	事業成果の有効性	事業の成果は、制度目的である地域課題の解決や地域活性化につながったか。	A: 制度の目的に十分に寄与するものだった B: 制度の目的に多少は寄与するものだった C: 制度の目的に寄与しなかった	A
4	PR活動の積極性	事業への参加者・協力者を増やすとともに、自団体の活動をPRするために積極的な周知が行われたか。	A: 様々な媒体を活用し積極的なPRが行われた B: 小規模ではあるが一定のPRが行われた C: PRはあまり行われなかった	A
5	外部団体との交流	事業の実施をきっかけとして、外部（他団体、地域住民など）との交流が行われ、団体構成員の増加や新たな事業計画の検討など団体の活性化が図られたか。	A: 外部との交流が行われ、団体の活性化につながる具体的な成果があった B: 外部との交流が行われたが、団体の活性化につながる具体的な成果はなかった C: 外部との交流には消極的で、団体活性化のための具体的な成果もなかった	B
6	活動の継続性	事業もしくは団体としての活動の継続・発展に向けた実施団体の動きがあるか。	A: 団体として具体的な計画を立てている B: 団体としての動きが多少ある C: 継続・発展に向けた動きはない	B

特記事項

団体名 NPO法人ちば環境情報センター

事業名 森と土 恵みに感謝！

No.	評価項目	評価項目の考え方	評価の基準	評価
1	事業の実施状況	実施時期・場所、実施回数、事業規模、費用など、事業が申請時の計画どおりに進められたか。	A: 計画を上回って実施できた B: 計画どおり実施できた C: 計画どおりに実施できなかった	A
2	事業目的の達成度	申請時に掲げた目的が達成されたか。達成に複数年要する目標の場合は、事業の成果が事業目的の達成につながっているか。	A: 達成できた又は達成に十分つながった B: 達成まであと一歩だった 又は達成に多少はつながった C: 達成には不十分だった	A
3	事業成果の有効性	事業の成果は、制度目的である地域課題の解決や地域活性化につながったか。	A: 制度の目的に十分に寄与するものだった B: 制度の目的に多少は寄与するものだった C: 制度の目的に寄与しなかった	A
4	PR活動の積極性	事業への参加者・協力者を増やすとともに、自団体の活動をPRするために積極的な周知が行われたか。	A: 様々な媒体を活用し積極的なPRが行われた B: 小規模ではあるが一定のPRが行われた C: PRはあまり行われなかった	B
5	外部団体との交流	事業の実施をきっかけとして、外部（他団体、地域住民など）との交流が行われ、団体構成員の増加や新たな事業計画の検討など団体の活性化が図られたか。	A: 外部との交流が行われ、団体の活性化につながる具体的な成果があった B: 外部との交流が行われたが、団体の活性化につながる具体的な成果はなかった C: 外部との交流には消極的で、団体活性化のための具体的な成果もなかった	A
6	活動の継続性	事業もしくは団体としての活動の継続・発展に向けた実施団体の動きがあるか。	A: 団体として具体的な計画を立てている B: 団体としての動きが多少ある C: 継続・発展に向けた動きはない	B

特記事項

団体名 川井団地むつみ会

事業名 地域の支え合いと活性化事業

No.	評価項目	評価項目の考え方	評価の基準	評価
1	事業の実施状況	実施時期・場所、実施回数、事業規模、費用など、事業が申請時の計画どおりに進められたか。	A: 計画を上回って実施できた B: 計画どおり実施できた C: 計画どおりに実施できなかった	B
2	事業目的の達成度	申請時に掲げた目的が達成されたか。達成に複数年要する目標の場合は、事業の成果が事業目的の達成につながっているか。	A: 達成できた又は達成に十分つながった B: 達成まであと一歩だった 又は達成に多少はつながった C: 達成には不十分だった	A
3	事業成果の有効性	事業の成果は、制度目的である地域課題の解決や地域活性化につながったか。	A: 制度の目的に十分に寄与するものだった B: 制度の目的に多少は寄与するものだった C: 制度の目的に寄与しなかった	A
4	PR活動の積極性	事業への参加者・協力者を増やすとともに、自団体の活動をPRするために積極的な周知が行われたか。	A: 様々な媒体を活用し積極的なPRが行われた B: 小規模ではあるが一定のPRが行われた C: PRはあまり行われなかった	B
5	外部団体との交流	事業の実施をきっかけとして、外部（他団体、地域住民など）との交流が行われ、団体構成員の増加や新たな事業計画の検討など団体の活性化が図られたか。	A: 外部との交流が行われ、団体の活性化につながる具体的な成果があった B: 外部との交流が行われたが、団体の活性化につながる具体的な成果はなかった C: 外部との交流には消極的で、団体活性化のための具体的な成果もなかった	B
6	活動の継続性	事業もしくは団体としての活動の継続・発展に向けた実施団体の動きがあるか。	A: 団体として具体的な計画を立てている B: 団体としての動きが多少ある C: 継続・発展に向けた動きはない	B

特記事項

団体名 かぞくのまなびや

事業名 地域で安心、みんなで子育て事業

No.	評価項目	評価項目の考え方	評価の基準	評価
1	事業の実施状況	実施時期・場所、実施回数、事業規模、費用など、事業が申請時の計画どおりに進められたか。	A: 計画を上回って実施できた B: 計画どおり実施できた C: 計画どおりに実施できなかった	B
2	事業目的の達成度	申請時に掲げた目的が達成されたか。達成に複数年要する目標の場合は、事業の成果が事業目的の達成につながっているか。	A: 達成できた又は達成に十分つながった B: 達成まであと一歩だった 又は達成に多少はつながった C: 達成には不十分だった	B
3	事業成果の有効性	事業の成果は、制度目的である地域課題の解決や地域活性化につながったか。	A: 制度の目的に十分に寄与するものだった B: 制度の目的に多少は寄与するものだった C: 制度の目的に寄与しなかった	B
4	PR活動の積極性	事業への参加者・協力者を増やすとともに、自団体の活動をPRするために積極的な周知が行われたか。	A: 様々な媒体を活用し積極的なPRが行われた B: 小規模ではあるが一定のPRが行われた C: PRはあまり行われなかった	B
5	外部団体との交流	事業の実施をきっかけとして、外部（他団体、地域住民など）との交流が行われ、団体構成員の増加や新たな事業計画の検討など団体の活性化が図られたか。	A: 外部との交流が行われ、団体の活性化につながる具体的な成果があった B: 外部との交流が行われたが、団体の活性化につながる具体的な成果はなかった C: 外部との交流には消極的で、団体活性化のための具体的な成果もなかった	B
6	活動の継続性	事業もしくは団体としての活動の継続・発展に向けた実施団体の動きがあるか。	A: 団体として具体的な計画を立てている B: 団体としての動きが多少ある C: 継続・発展に向けた動きはない	B

特記事項